



「例会は親睦なり、深めよう親睦！」

・会長 井田 武憲
 ・幹事 桜井 雅博
 ・会報 占橋 裕志
 ・事務局 尾張旭市商工会館 TEL 0561-54-1263 FAX 0561-54-8945
 E-mail: owariasahi@mtekihighohe.ne.jp
 URL: http://www.owariasahi-rc.jp/

・例会日 毎週金曜日 12:30

・例会場 〒488-0801

尾張旭市東大道町原田2570-3

ふれあい、思いやり、そして握手

本日 第2060回 2013年5月31日(金) No. 1950

本日のプログラム Today's Program

点 鐘

ロータリーソング「君が代」・「奉仕の理想」

卓話担当者: 会員増強委員会

担 当 者: 箕輪 良孝君

演 題: 「新入会員を迎えた時」

前 回 第2059回 2013年5月31日(金) 記 録

○齊 唱: 「それでこそ ロータリー」

○ゲスト: 菊田法律事務所 所長 菊田 利昭様

○出席者: 会員28名中20名出席 出席率71.42%
 前々回補正出席率 5月1日分96.42%

会長あいさつ 井田 武憲

5月24日(金)、久しぶりの早朝例会でした。

良福寺さん(当RC箕輪会員住職)は、市内では、最も古く、平安時代の創建と伝えられています。天正12年(1584)小牧・長久手の戦の兵火に合い、寛永8年(1631)尾張藩主徳川義直の命により、政秀寺三世槐山(かいざん)和尚が再興し、江戸時代の終わりには寺子屋が開かれていたお寺だそうです。なお山門(薬医門)は、その時、清州城の裏門の一つを移築したものといわれ、市指定文化財になっています。(参考資料、「尾張旭の地名」市教育委員会発行)

早朝6時半、山門をくぐり打ち水がまかれ境内に入ると静寂さにつつまれて落ち着いた気分になりました。例会後、座禅(静座して、善悪を思わず是非に関せず有無に涉(わた)らず、心を安楽自在の境地に逍遙させること。主として禅家で行う。その方法は結跏趺坐(けっかふざ)して上体を起こし、目を半ば開いて行う。)(新国語中辞典、三省堂発行)を組み、約30分間でしたが、よい経験になりました。その後お粥をいただき、寺内の説明を聞きながら散会となりました。良福寺さまおよび係りの会員の方々、お世話になりました。ありがとうございました。

幹事報告

・5/24 4RC(現・次期)会長幹事会 於清月 古橋裕志副会長、加藤清久副幹事、桜井幹事出席

ロータリー親睦活動月間

・次回の会合: 第15回理事役員会

卓 話

「私の職業と趣味」

丹羽 敏行



先週の5月23・24日(木・金)は、名工大電気工学科S38年卒業生の卒業50周年のクラス会がありました。私は、授業のため2日目のみに出席しましたが、この日は名工大電気工学科・電子工学科・情報工学科卒業生の同窓会である映画会総会も開催され、クラス会出席者はそちらへも出席しました。私は教員としても23年間在職しましたので、旧知の先生方や後輩にも会うことが出来、大変有意義な日となりました。

今回は卒業後50周年ということで、幹事役が頑張って50年記念誌を作成してくれました。出席者のほとんどがそれぞれ好きなことを書いたのですが、私は「私の半世紀」という題で極めて簡単に5ページの自分史を書きました。今回の卓話もそれに似たものになりました。

今回は卒業後50周年ということで、幹事役が頑張って50年記念誌を作成してくれました。出席者のほとんどがそれぞれ好きなことを書いたのですが、私は「私の半世紀」という題で極めて簡単に5ページの自分史を書きました。今回の卓話もそれに似たものになりました。お付き合いをよろしくお願いいたします。

私は職業についてから49年目になります。最初の23年間は名工大で研究を中心に仕事をし、その後の25年間は中京大学で教育を中心に仕事をしています。

1. ほぼ半世紀の職歴
 <1964-1973年度 名工大電子工学科>
 名工大では最初電子工学科に所属しました。そこで、研究室の片隅に転がっていたHIPAC103(日立製パラメトロン素子のコンピュータ)用FORTRANのマニュアルを見て、プログラム作りに興味をそそられました。

	6月14日(金)	6月22日(土)	6月28日(土)	7月5日(金)
例会予定	卓話担当者: 例会運営委員会 卓話者: 唐井 仁一君 演 題: 「一年間を振り返って」	21日振替 夜間例会 於神楽家(名古屋市中区) 18:00点鐘	定款第6条第一節により 休会	卓話担当者: 大野良之君 卓話者: 〃 演題: 「会長所信表明」
3分間	—	—	—	—

最初に取り組んだ問題は、サーミスタ回路の定常解の数値計算でしたが、修士の時に苦勞したものが極めて簡単に得られたのには本当に感激しました。これ以後、30年以上にわたりプログラミングとともに苦樂を共にすることになりました。

結局、電子工学科在職の前半はCAD (Computer Aided Design)による電子回路の最適設計が主たる研究テーマとなりました。

<1970-1975年度>

1970年度に講座が増設されることになり、増設の準備を任されました。まだ、教授も決まっていなかったのに、多額の講座増設費の運用を任されたのは本当に幸運であったと思います。早速、発売が始まったばかりのミニコンを購入することにしました。当時は、HITAC10が先行し、FACOM Rが市場でシェアを伸ばしているときで、両者とも強気でした。そこで、最も後発ながら熱心で気持ちのよい営業の沖電気から、OKITAC4300を購入することにしました。このときのスペックは、主記憶がメモリクロック $1.5\mu\text{S}$ 、容量4KW(8KB)で他にコンソールタイプライタと紙テープリーダーが付属していて、およそ500万円であったと記憶しています。後に主記憶8KBを増設しましたが、この価格が100万円でした。現在のパソコン用メモリが16GBで約1万円と単純比較して約2億倍の価格ということになり、これにアクセス速度まで考慮すると、さらに100万倍程度に相当することになります。

このコンピュータにはFORTRANコンパイラも一応用意されていましたが、とても工学部での実用的な数値計算に使えるものではなかったように記憶しています。従って、導入後に取りかかったのは、ブートストラップと呼ばれる手入力の短いプログラムから作り直すことにし、最終的には使い勝手が良くてレベルの高いFORTRANコンパイラ作成を目指すことにしました。そのような矢先の10月頃、沖電気の方からFORTRANコンパイラの開発依頼を受けました。とある工業高校でデモするまでの時間も少なく迷いましたが、これまでの進捗状況も考えて引き受けることにしました。この後の3ヶ月ほどは、研究室が戦場のようでした。12月に入ってから、開発とデバッグのスピードを上げるため、コンピュータも1台借用し、年末年始もコンピュータ室に泊まり込みで集中しました。もちろん、手伝ってくれる卒論生諸君にも年末年始無しで頑張ってもらいました。しかし、デモ日の前日もまだコンパイラと実行ルーチンの合体が出来ていませんでした。ところが、夜に入って初めて合体させ、テストプログラムをかけたところ、コンパイルも実行も正しく動作しました。このときの感覚は喜びというよりは呆然といった風でした。「どうして、一度で動いたんだろう!」といった具合でした。その後、情報工学科が新設されそちらへ移籍するまで、このミニコンのシステムプログラム作りに奔走することになりました。

<1974-1987年度 情報工学科>

1974年度より、新設の情報工学科に移籍しましたが、ここでも学科新設に伴う講座新設の準備を任されることになりました。お陰で、研究教育用として当時新鋭のミニコンU-200システム一式を導入することができました。同じ頃、大学の情報センター用大型コンピュータの選定作業にも携わることにもなり、毎日がコンピュータのシステムプログラム開発の日々となりました。

1980年頃より、パソコンが発売されるようになり、研究室でもシャープのMZ-80に続いて三菱電機のMULTI 16を導入し、パソコンのプログラム開発にも踏み込む

ことになりました。中大型機に比べてパソコンはグラフィック表示に優れていたもので、それを活用した「ステレオ法(両眼視)による3次元計測」を研究テーマとするようになり、同時に画像処理にも力を入れるようになりました。3次元計測の応用例としては、名大医学部との共同研究で、小脳に疾患のある患者の上肢の動きを3次的に解析したこともあります。結局、名工大に在職していた時代は、多くの優秀な大学院生や卒論生諸君に助けられて、研究センターの時間を過ごしていたことになります。こんな具合で、帰宅するのはたいてい日の境目を過ぎた頃でしたから、家族は大変だったろうと思います。

<1988-2010年度 中京大学>

社会学部の創設に際して、顔見知りの日比野省三教授より誘われ、情報分野の教員として創設2年後に移籍しました。ここでは、名工大と異なり、文系で学生数が非常に多いということもあり、研究よりも教育が中心とならざるを得ませんでした。ちなみに、23年間の在職中でのゼミ卒業生は690名にもなります。

研究の方は、日比野教授との共同研究が主となり、テーマも社会的な手法による情報システムの評価が多くなりました。それに伴って、カリフォルニア州立大学のテリー・カーティス教授や中国西安の社会科学院との共同研究にも発展し、現地調査のためあちこちへ出かけるようになりました。

中京大学でも、コンピュータ演習室の管理から始まり、情報センターの創設に関わることになりました。

2002年度から2007年度まで情報センター長を、2008年度から2010年度まで梅村学園評議員を務めました。多くの方々にご協力いただいたのが忘れられません。この教職員間の人間関係は大変良好で、中京大学での最大の収穫であったように思います。

<2011年度以降 退職後>

70歳定年で、2011年3月に中京大学を退職後も、年間平均で週3コマの授業(いずれもコンピュータ使用)を担当しています。

<学外での仕事>

名工大時代を中心に名城大学、国際工学院専門学校、名古屋工学院専門学校などで非常勤を務め、今でも春日井小牧看護専門学校で「情報科学」という科目を担当しています。結局、私の半世紀における仕事は全てコンピュータを使用したものということになります。

2. 生き甲斐の趣味

(1)写真: カメラは小学生の時より手にしていますので、およそ60年の写歴ということになるのでしょうか、腕の方は一向に上がりません。ただ、Photoshopによる画像処理の技術は向上したように思います。最近、機材の進歩により、ますます写真の活用できる領域が広がっていて楽しみが増えています。たとえば、家内のボイスやコーラスの発表会、知り合いのミュージシャンのコンサートやリサイタルなど音楽会のカメラマンやビデオマンを務めたり、うちのデザインをしたりで感性の領域も楽しんでいます。

(2)テニス: 中学時代、大学時代はソフトテニスでしたが、この30年ぐらいはテニスを楽しんでいます。もちろん、最近健康維持の色合いが濃く、もっぱら室内ですが。結局、仕事ではコンピュータと趣味ではカメラと共に生きてきたといったところでしょうか。今後は、仕事を減らして趣味に力を入れたいとありきたりなことを考えています。

※ニコボックスは次回の掲載になりました。